

結城素明滞仏100周年記念企画展

ゆう き そ めい
結城素明

油彩画の世界

—— 大正期の巴^{パリ}里を描く ——

2023 5月13日(土)～6月18日(日)

休館日 毎週月曜日、5月23日(火)、6月6日(火)

開館時間 10時～16時

入館料 一般 500円、高校生 300円
(中学生以下は無料)

記念講演会 2023年5月27日(土) 16時30分

演
題

“素明再考” 現代日本画が継承したもの

講師：荒井 経 東京芸術大学大学院教授

※講座の参加希望者は右記QRもしくはFAXで事前申し込みをお願いいたします。参加費は無料ですが、入館料は必要となります。



展示解説会 2023年6月4日(日) 14時～



結城素明 バッシー橋(1924年・油彩/カンヴァス)

結城素明

油彩画の世界

France Paris Japan

—— 大正期の パリ 巴里を描く ——



ブローニュの池畔



ノートルダム寺院



酒場サントラ



凱旋門



ラ・フォンテン町



サックス町

白河の藤田家と交友のあった日本画家結城素明が大正12年(1923)に文部省在外研究員として渡仏してから本年度100周年を迎えます。日本画家としての文部省留学は実に明治期の下村観山以来でした。素明は、ブローニュの森近くのパリ市街に住む実弟・森田菊次郎宅を拠点にフランスはもとよりベルギー、ルクセンブルク、スイスなどの油彩風景画を130余点ほど描いています。

今回の企画展では、それらの作品群の中からパリを描いた作品を30余点展示紹介いたします。ノートルダム大聖堂などの教会、ブローニュの森をはじめとする公園、セーヌ川に架かる様々な橋、エッフェル塔や凱旋門などのパリの街並み油彩風景画は、100年前のパリを彷彿とさせてくれます。日本画家である素明の油彩画の展覧会は大正14年に東京と大阪で開催されて以降初めての展覧会となります。その画風は印象派のような光を意識し多彩な色彩を纏った作品群です。この機会に大正期のパリ風景を素明油彩画の世界をとおして鑑賞してみたいはいかがでしょうか。



ゆう き そ めい
結城素明 (1875~1957)

結城素明は、明治8年(1875)に東京本所の酒商池田屋を営む森田家の次男として生まれる。本名の貞松や素明のネーミングは勝海舟によるものといわれている。明治24年(1891)に岡倉天心の紹介で日本画家川端玉章に入門し、翌年東京美術学校(現東京芸大)日本画科に入学し、明治30年(1897)に卒業するも同校西洋画科に再入学(中退)。

明治33年(1900)には平福百穂などと絵画団体「无声会」を結成し、同37年には東京美術学校助教授(大正2年に教授)となる。この頃、素明と白河・藤田家との交友が始まる。

明治40年(1907)には第1回文展に「無花果」(いちじく)が入選、同44年には「囀」(さえずり)が第5回文展に入選、翌45年の二科展に「甲たる馬」が入選するなど活躍、大正5年(1917)には吉川麗華、鏑木清方、松岡映丘、平福百穂と「金鈴社」を結成し、同11年まで活動、翌12年には文部省留学生としてフランスに2年間留学。帰国後は、帝展を中心に活躍し、終戦後は食糧事情の悪化等により昭和21年(1946年)から翌年にかけて藤田家に疎開、戦後も日展などに出品を続けたが、昭和32年に東京文京区の自宅において81歳で没。